

パチカン(八郎湖環境を考える会)がアサザ基金への研修で考えた八郎湖の未来

パチカン代表

菅原巧太郎

私たち八郎湖環境を考える会、通称パチカンは2015年3月5日～8日の間、霞ヶ浦流域の環境保全に関する活動で有名なNPO法人アサザ基金へ研修のために訪れました。目的は、アサザ基金が行っている活動を今後の参考にすることと、八郎湖に関する保全活動を活発なものにする方法を学ぶためでした。そこでは、さまざまな体験をするとともに、秋田県と茨城県では何が違うのか、八郎湖の水質汚濁の問題は毎年のように取り上げられているのに、なぜ水質改善や八郎湖に関わるイベントが行われてもあまり人が集まらず、活気がないのかについて考えさせられました。この研修を通して感じたこと、考えたことについてこれから述べていきたいと思います。

・CSR（社会的責任）活動

まず、始めにCSR活動について述べます。CSR活動とは、企業が利益の追求だけでなく、社会的責任、例えば、環境保全や地域活性化等の活動を

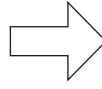
行うことを指します。アサザ基金への研修で感じたのは、多くの企業がこのCSR活動に対して積極的であるということです。これは、秋田ではあまり見られない光景のように思いました。今回の研修では3月6日に私たちパチカンも実際に、ダイワハウスの方々とNECが活動を行っている谷津田再生地におけるボランティア活動を行ってきました。ボランティアの内容は、ヨシが茂った耕作放棄地を踏んで整地する『踏み耕』(図1)と、ササを刈って林内を整地する『ササ刈り』でした。秋田では、民間企業が主軸になっての環境保全活動というのはあまり行われていない気がします。そこが秋田県の課題であると私は感じました。しかし、都市部に比べて、いわゆる大企業と呼ばれる企業が少ない秋田県で同じように多くの企業が先導して環境保全活動を行うのも難しいと思いました。秋田県は、秋田県に合ったオリジナルのやり方を見つけて、それを実行する必要があると感じました。



図1 耕作放棄地を踏んで整地する『踏み耕』の様子



Before



After

図2 『踏み耕』前後での耕作放棄地の様子

・イベントへの参加者

3月7日には、三井物産の方たちと田中酒造の蔵出しイベントに参加しました。谷津田の再生地でとれたお米でのもちつきや酒造見学、お酒のラベル貼りと環境保全を呼びかける看板作りの手伝いを行い、昼食の準備、配膳等も行いました。参加者、特に子どもが多く、とても活気のあるイベントのように感じました。私が今まで関わってきた八郎湖に関するイベントと比べて、段違いに子どもの数、参加者の数が多く、とても驚きました。参加者が多いのは、東京等の都市部に、位置的に近い（東京駅から茨城県までは電車で1時間ちょっと）ということが主な要因ではないかと思いました。都市部からイベント開催地までそんな

に離れていないことから、人が集まりやすく、さらに、首都圏近郊ということもあり、人口が多いため、興味を持つ人が地方に比べて多いということも考えられました。その場合、地方の秋田県はなす術がないと感じましたが、このイベントの参加者の方が、「子どもに色々な経験をさせてあげたくて、このイベントに参加した」というお話を聞いた時、秋田県も子どもが楽しめるようなイベントを八郎湖と結びつけることができれば、今よりは多くの人が集まるのではないかと感じた。そういった八郎湖の水質汚濁解決や環境問題を考え直すきっかけに繋がる且つ、子どもを含めた多くの人々が楽しめるイベントを行うことが重要ではないかと思いました。



図3 田中酒造の蔵出しイベントでの餅つきの様子



図4 飯島氏の講義の様子

・今後の八郎湖に関する展望

私たちパチカンは、今後、アサザ基金を手本とし、秋田県でも精力的に活動していこうと考えています。しかし、茨城県と秋田県では大きく状況が異なります。秋田県は茨城県のように都市部が近く人が集まりやすいわけでもなく、大企業がCSR活動を盛んに行っているわけでもありません。全てアサザ基金の真似をしても人々の自発的な環境保全活動が成功するということはおそらくないと思っています。そこで、私たちパチカンは、秋田県オリジナルの環境保全活動のあり方を模索し、きれいな八郎湖を取り戻し、八郎湖をみんなの憩いの場にできればと考えています。そのためにも、パチカンは、多くの人たちとたくさんのつながりを持ち、学生の視点から、多くの人々にパチカンが抱く八郎湖への「ファンタジー」をぶつけていきたいと思っています。この「ファンタジー」という言葉は、NPO法人アサザ基金の代表理事を務める飯島博氏（図4）の言葉です。「ファンタジー」とは具体的に言うと、「『保全活動を行う人々が持つ『今の自然を変えていきたい!』という夢や理想』ファンタジーがある人が集まり活動を起こせば、答えのない問いかけに対

するもやもやした気持ちも、いつか形になる」ということだそうです。つまり、私たちパチカンは、多くの人にこの「ファンタジー」をぶつけて、今後八郎湖をどのようなものにするのかというのを形にしたいと考えています。そして私が個人的に考えている八郎湖の未来というのは、将来的に長い年月をかけて八郎湖について多くの人たちに八郎湖のことを知ってもらい、休日は湖周辺に多くの人々が集まり、にぎやかな場所、たくさん人の憩いの場としての八郎湖になれば良いと考えています。そのためにも、八郎湖及び八郎湖流域の環境保全・改善が重要です。よって今後、パチカンは具体的な活動として、サークルと大学の先生とで協力し自主研究を行い、科学的な視点からの八郎湖へのアプローチに加え、各八郎湖に関連する団体さんと協力してイベントを行い、主催者側として多くの人に八郎湖環境の重要性をアピールするにはどうすればよいかについて地域社会への啓発的な視点からのアプローチの2つの視点から八郎湖の環境保全に関わっていこうと考えています。これからも八郎湖に様々な「ファンタジー」を求めて活動していこうと思います。